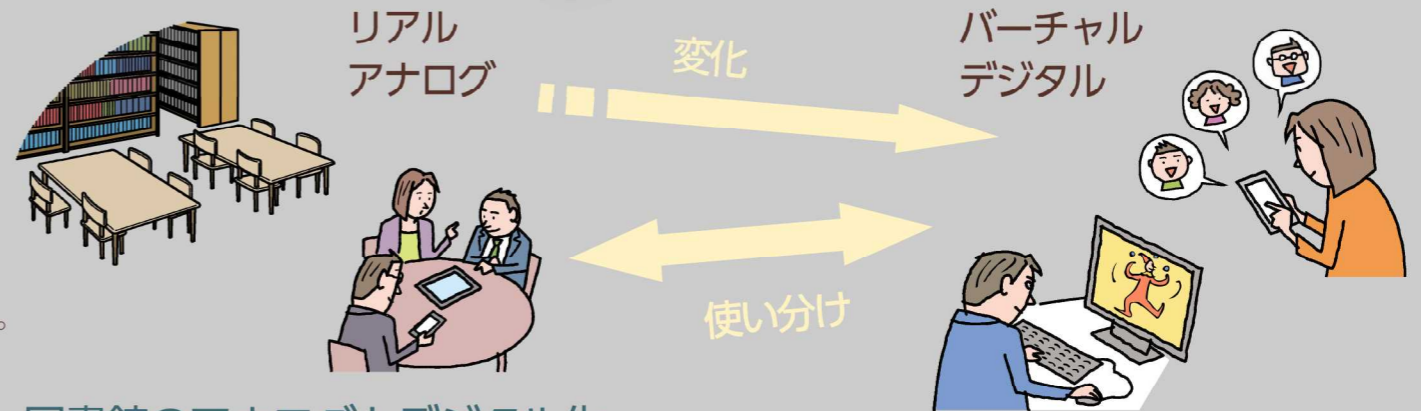


Library Networking Service

県立図書館は多様な資料を豊富に収集し、保存することで、県民のあらゆる資料要求に応える役割を担っている。そのため、調査、研究のための資料収集には欠かせない機能を担っている。
 現在において、情報はパソコンや通信環境の発達によりIT、高度情報化が進み、インターネットでの収集、SNSを利用したオンライン交流等が可能となり、図書のような現実（リアル、アナログ）ではなく仮想環境（バーチャル、デジタル）が主流となってきている。
 一方で、オンライン交流から現実での交流（オフ会）、オンラインゲームがe-sportに発展する等、仮想環境が現実フィードバックされるといった状況も見られる。
 社会的には働き方改革として、インターネットを利用したリモートワーク、Web会議等が発展している。これらの社会的状況や図書館役割を踏まえた、人を繋ぐ場所の核となる図書館サービスを提案する。



図書館と資料収集

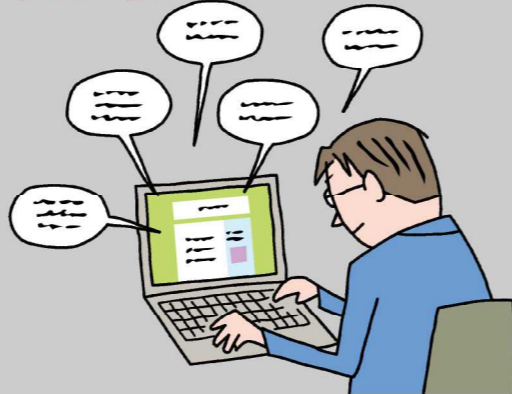
図書館は調査・研究のための資料探しのために利用される。その利用者は大学、企業等の団体から個人まで、関心・興味から仕事の必要性まで、経緯は多岐にわたる。経緯は異なっても、同じような調査、研究がされている場合、情報共有、交換されることで、より良い調査、研究に繋がると考えられる。

個人の資料収集



交流

情報交換



図書館のアナログとデジタル化

図書館の資料の多くは出版された図書であり、紙媒体（アナログ）である。資料の収集にあっては紙媒体の複写もしくはデータ化による提供となっており、その際の複写作業、複写枚数の制限が発生する。
 図書のデータ化（デジタル）することで、同時に複数の人に資料の提供はもとより、インターネットを利用しての閲覧が可能であり、データ提供も受けられれば、データに直接メモができるなどのメリットがある。しかし、図書館に保管される図書の数は膨大であり、データ化には時間と手間が多くなる。



データ化には時間と手間がかかる



Suggestion

No1 図書館ネットワークサービスの構築

図書館利用者が利用者登録により、利用者情報、貸出履歴を公開し、利用者が相互に望む場合には、交流できる機会（**図書館ネットワークサービス・LNS**）を提供する。
 また、リアルに交流できる場として、打合せスペースの貸出、発表の場を提供する。

No2 利用者共同の図書のデータ化

図書館ネットワークサービスを普及させるためには、図書館のオンライン利用を増やすことが必要となる。そのため、データ化されていない図書は**利用者と共に図書のデータ化**を促進し、オンライン閲覧可能な図書を増やし、オンライン利用増加を図る。



図書館の本棚を見ると
うっとりする。並ぶ背表
紙の全てが新たな世界
へつながる扉。
図書館のポテンシャル
は、そのキュレーション
力にかかっている。私が
図書館に求めるのは世
界への道を示す力。たと
え幽かでも構わない。

図書館は
風が吹く場所。
風に吹かれる場所。
風を起こす場所。

そこは
私が変わる場所。

私には行く場所がある。

there

IS

a place

where I can go

a place

図書館の新たな仕事は
「つなげる」こと。公
民館の調理施設+茶市
場+大学を繋ぐ文化教
室。各地の図書館が持
つCD+カフエのマス
ターを繋ぐジャズ再入
門。眠っていた情報、
言葉にならなかった技
が響きあう。

つなぐ？
なにを

もしも風が吹く場所

つなぐ？
だれと

魚屋さんと魚の捌き方
読本を読み比べる。古
書店亭主と貴重書庫を
探検。キュレーターた
ちの経験とともに頁を
めくれば、本は新たな
価値をもって立ち上が
る。図書館は、そんな
新たな読みができる誰
かを発掘する。

もしも風が吹く場所
つなぐ？
だれと

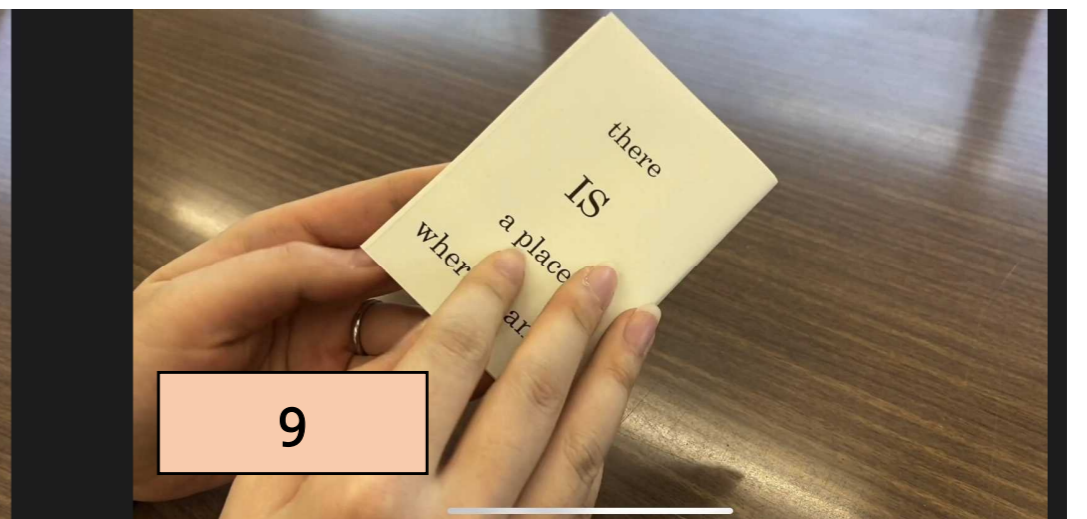
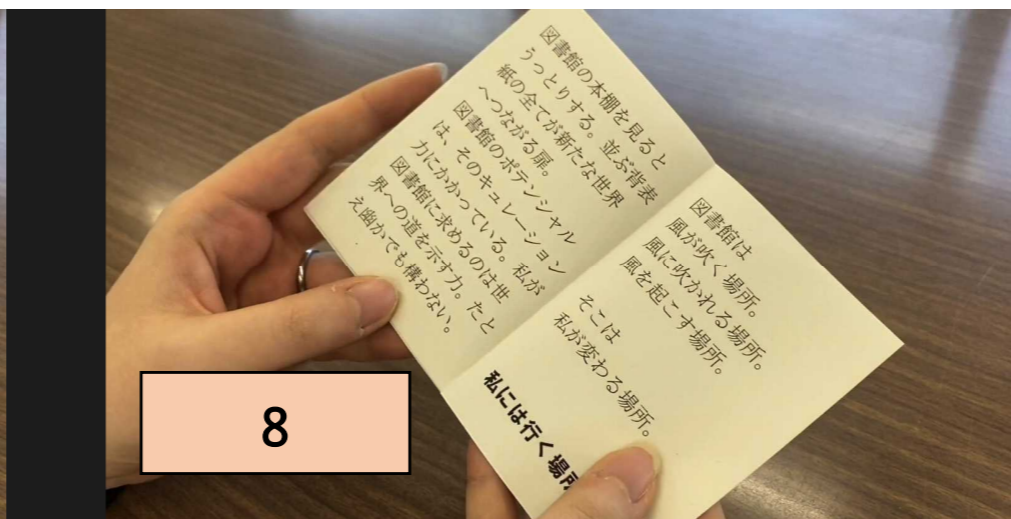
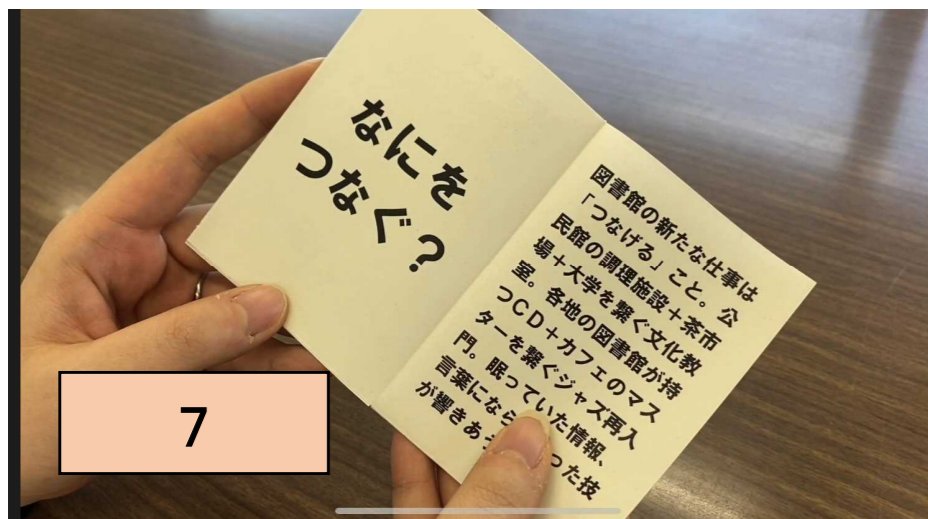
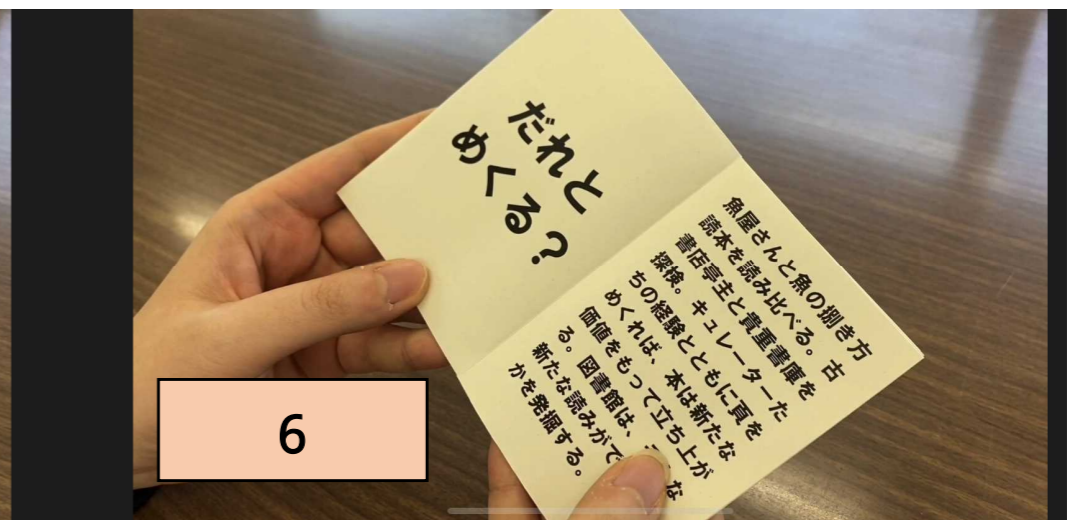
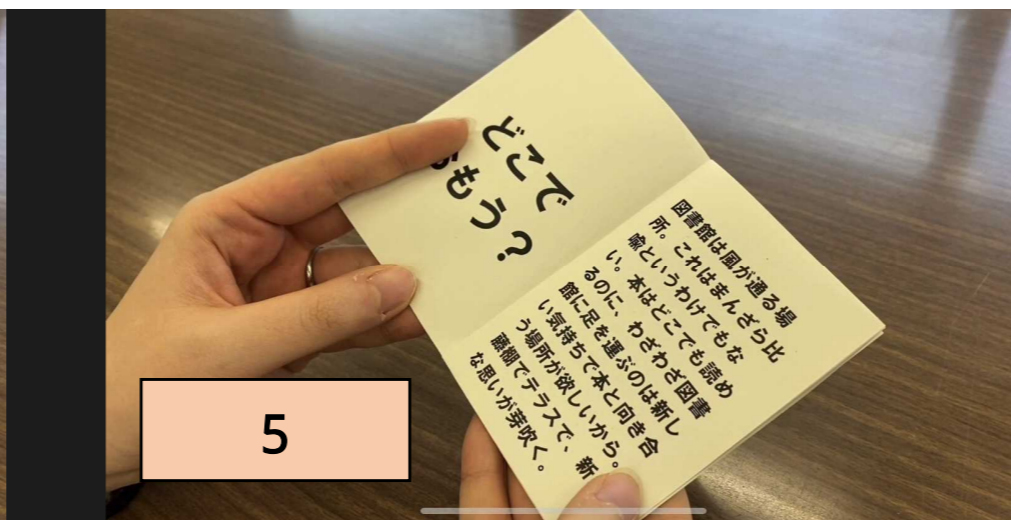
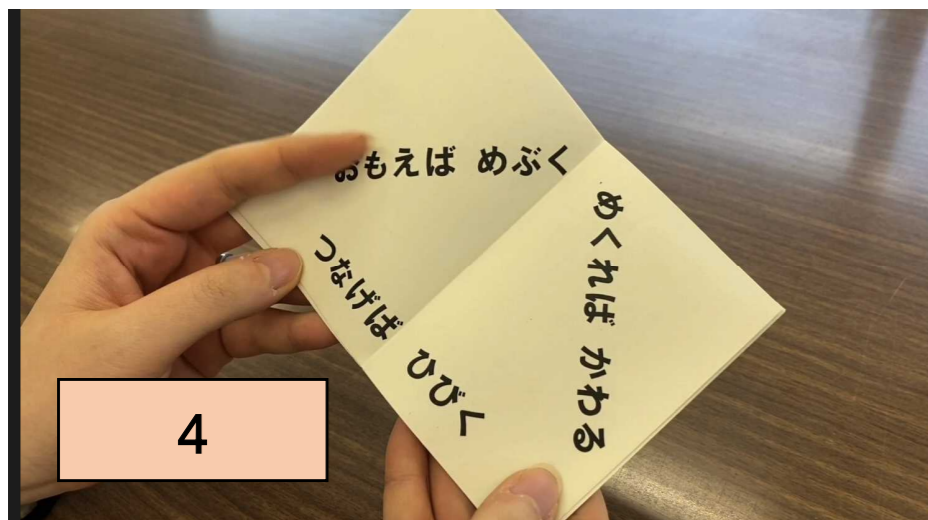
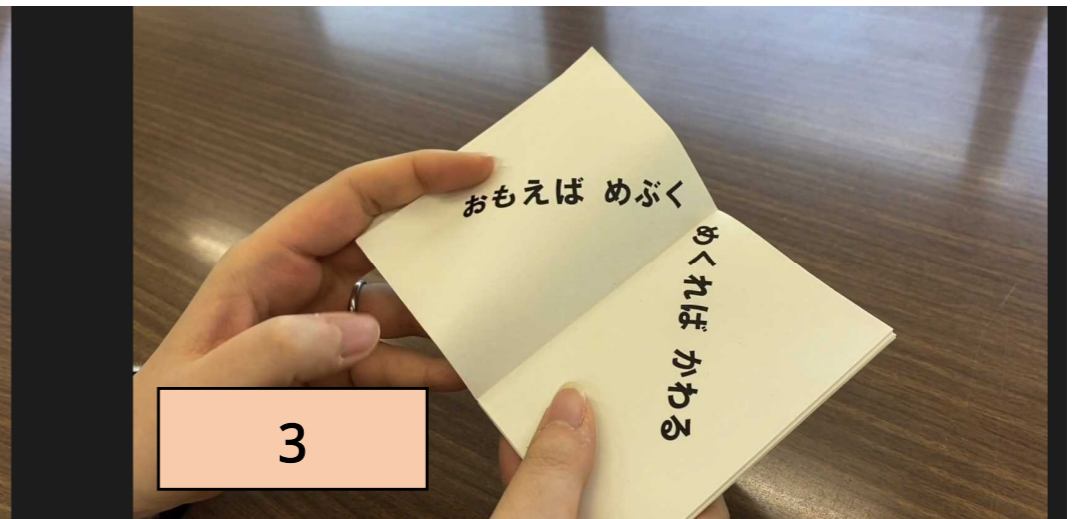
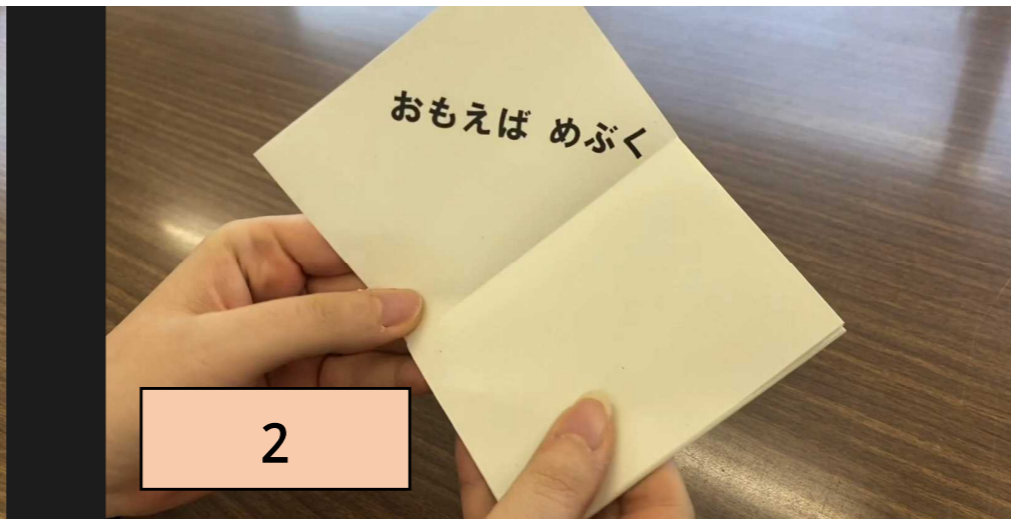
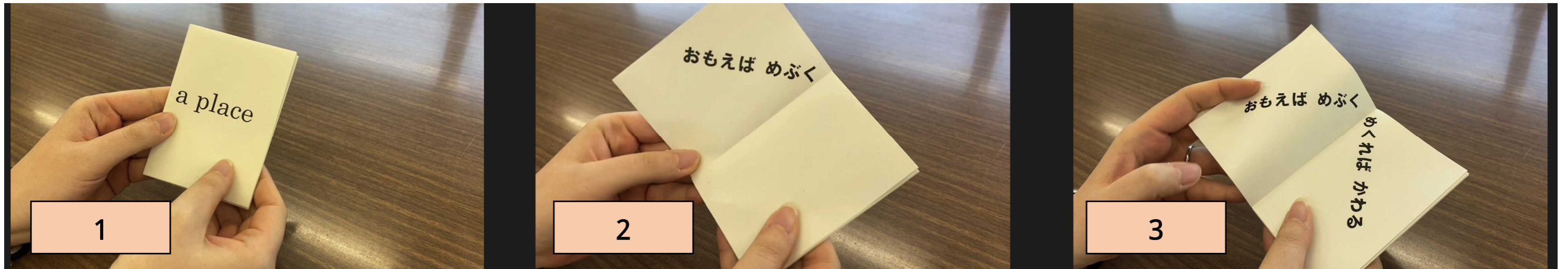
図書館は風が通る場
所。これはまんざら比
喩というわけでもな
い。本はどこでも読め
るのに、わざわざ図書
館に足を運ぶのは新し
い気持ちで本と向き合
う場所が欲しいから。
藤棚でテラスで、新た
な思いが芽吹く。

おもう？
どこで

つなぐ？
ひびく

もしも風が吹く場所
つなぐ？
ひびく

37 a place は、A3用紙を切り折りした、冊子体の体裁で応募されました。



Go to read ! 読書県静岡の新図書館に望むこと

図書館は、本が沢山あればいいというものでもない。動かないで眠っている図書のなんと多いことか…中には宝石のように光っているが、その光を見つける眼力を持ち合わせないために発見されない本も多くあるに違いない。

図書館のサービスの神髄とは何だろうか？

本の案内人がいて、その分野の本をよく知っている人が蔵書構成を担当し、探している来館者に最も適した本の紹介ができるかどうか。来館者と本の仲立ちのためのコミュニケーションをどう展開できるかが基本ではないだろうか。200万冊という蔵書を県民にどう手渡し「知の財産」をどう生かすか、なのではないでしょうか。

そのために必要な条件は、運営の基本「人…図書館員」の資質をどう引き出すか、なのであろう。その意味では、静岡県立中央図書館では館員に高校教員が多く、それぞれの専門分野を持ち、案内人としてのスキルを磨けば光る可能性を秘めた人材が育つ素地があり頼もしい限りです。

「本探しのスペシャリスト」がいる日本一の図書館

岡山県立図書館

総合サービス、人文科学、児童、郷土、自然科学、社会科学の6部門に分かれた、専門知識を持った職員34人が専門性を高めつつ、緻密で適切なレファレンスサービスを展開し、利用者からの問い合わせや相談に対応している。

2004年のオープン以来14年間、個人貸出冊数と入館者数が全国一位とな(2019年高知にトップを譲る)

図書館のネットワーク化

静岡県は東中西にと広域なサービスが必要で、県内の市町立図書館、学校図書館との連携はもちろん、山間部など遠隔地に資料を届けるネットワーク化には多くの困難を伴います。コロナ禍の中での電子メディア利活用はこれからの図書館の発展を支える有力な機能の一つになることでしょう。また、増え続ける資料のマイクロ化、電子図書の活用にも力を注いでいかねばなりません。

学校図書館との連携

初等教育の目的は「自ら本に手を伸ばす子どもを育てること」に尽きると、数学者でエッセイストの藤原正彦氏は語っていますが、今教育界は、独創性や他者への共感力、自ら総合的に判断する力を持った人材を育てようと様々な改革を行っています。

これらを養う上で一番有効なのが読書であり、本を通じて感動し、心に焼き付けた体験を重ねることで様々なことに関心を広げ自ら学び一生を通じて“生きる力”つを与えられるのです。図書館は子どもの夢、社会の未来を育む場所で、どこにいてもいつでも素早く本が読める環境づくりがとても大切です。学校図書館の充実こそ新図書館の第一目標と取り組んでほしいものです。

鳥取県立図書館 学校支援センター (都道府県立図書館では全国初 H27年に開設)

児童生徒の主体的に学ぶ力を育成するため、就学前から高校まで一貫した見通しを持った学校図書館活用教育を推進している。

★構成員 「学校図書館支援員兼指導主事」と郷土資料や障がい者サービス等に詳しい専門性の高い『司書』で成る館内チームを結成し、小中高校・特別支援教育課など市町村の教育委員会や図書館などと連携しながら活動している。

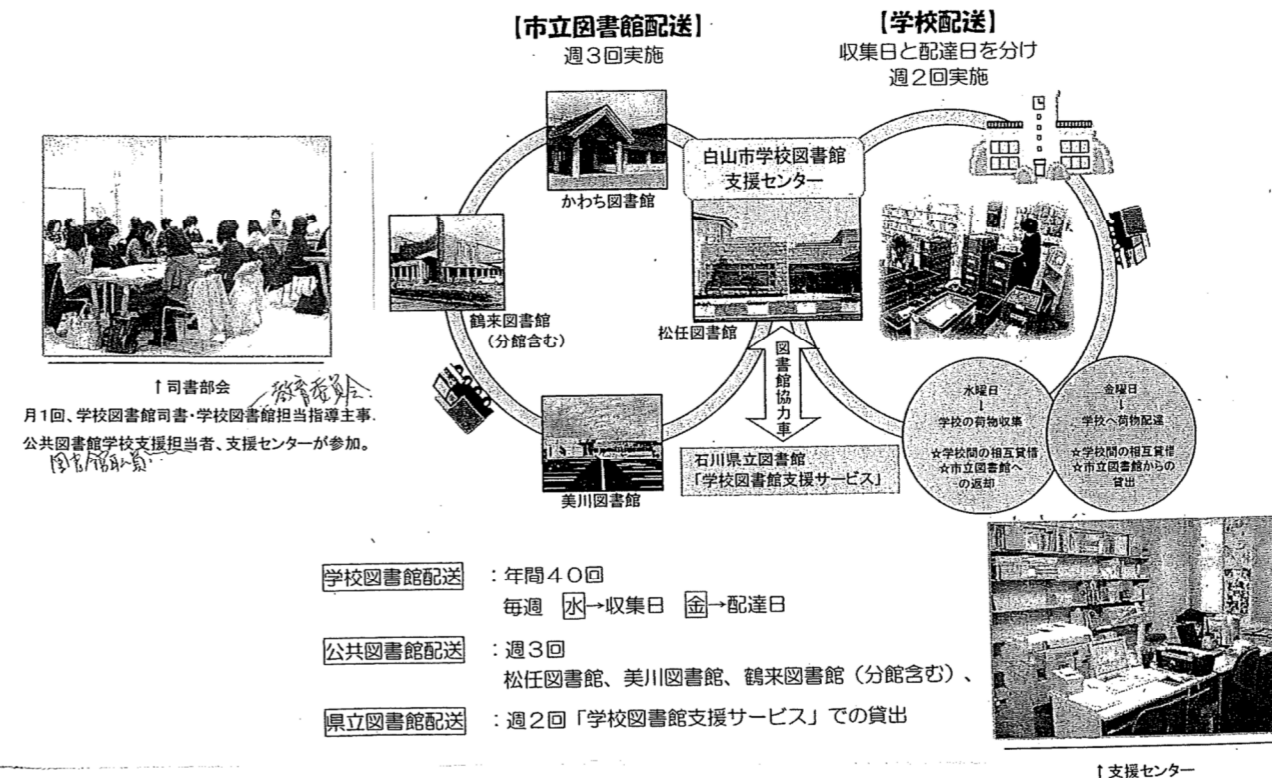
★活動内容 授業に使う図書貸出・資料相談、新刊児童図書の提供
小中学校の単元別授業活用見本図書セット提供、郷土学習ガイド資料貸出

千葉県立図書館 子ども読書推進センター

学校図書館と連携し、センター職員や協力員など約13名

★活動内容 運営相談(学校図書館の本の配架や除架・新書選定など)
教科書単元やテーマに沿った調べ学習や並行読書に役立つブックリスト掲載
→ リストを使った授業レポードの作成
高等学校向け調べ方案内
レファレンス案内パンフ作成 講師派遣相談

石川県立中央図書館と白山市学校図書館支援センター 協力ネットワーク



以上を参考に、館内に学校支援センターを設置し市町図書館との連携の下、学校図書館への協力ネットワークを構築し、読書環境整備に力を注いでほしいものです。

その他 ★愛称とロゴマークを募集する。
★図書館ボランティアの募集

ふじのくに **ピクニック・ライブラリー+** プラス

●新しい生活様式の中の図書館をイメージしてみると...



歩ける範囲がまるごと図書館
ピクニックに行くように気軽にわくわくと

①スマホ等で いつでも・どこでも 本と であえる

- ・スマホ等からマイナンバー登録して、キーワード検索し、読みたい本（欲しいデータ）がスマホや図書館専用タブレットで読める。
- ・アプリ上では関連本等のおすすめ本の案内やキーワード等から検索も可能
- ・家で、街なかのカフェで、好きな時に、好きな場所で読む（音声読み上げ機能対応）ことができる。
- ・図書館内は移動可能なカプセルブースで読む、調べる
または、ガーデンテラスの丘、創作広場等の屋外の利用や街なかへGO！
- ・ビルの空室や空家等と連携したサテライト利用で、テレワーク等も可能。

②DXのスマート図書館で価値創造

- ・24時間利用可能で、世界中の図書館等とのネットワーク専用タブレット等の利用が基本。手に取りたい本等の時は、AI+ロボットで最速で地下書架から本（データ）を提供。
- ・フリースペースをパネルで自由に区切り、セミナー・研修やオンライン
- ・創作ルームや屋外での創作ワークショップを県内の映像、アート、音楽等の関連施設、大学との連携やオンラインワークショップ開催。
- ・人生100年、誰もが活躍できる場・時間・サービスの提供。
- ・バーチャルルームで、本の中にいるバーチャル体感や映像情報による資料補足、ミュージック関係等の練習にも活用。

③緑の中の文化拠点形成（既存立地した丘陵イメージを継承）

- ・半地下は採光や換気が十分な図書館と、その屋上や地上はガーデンテラスと広場利用で、市街地にオープンスペースや緑化による、都市景観の向上
- ・駅周辺の歩ける範囲の文化施設、大型商業施設・温泉施設と機能・空間連携した拠点形成や周辺広場公園と緑のネットワーク形成。
- ・人中心のウォークラブルなみちで、施設や広場等と回遊性のつながり
- ・癒しの緑・広場、人との交流や創作展示、イベントも楽しめる。
芝生広場で、屋外フィットネス、カフェ・軽食施設も
チェアリングして、好きなところで休憩・読書も
- ・快適な環境の中で、人との関係性を高め、価値創造が生れる。



防災機能も対応し、災害対応指令基地にも



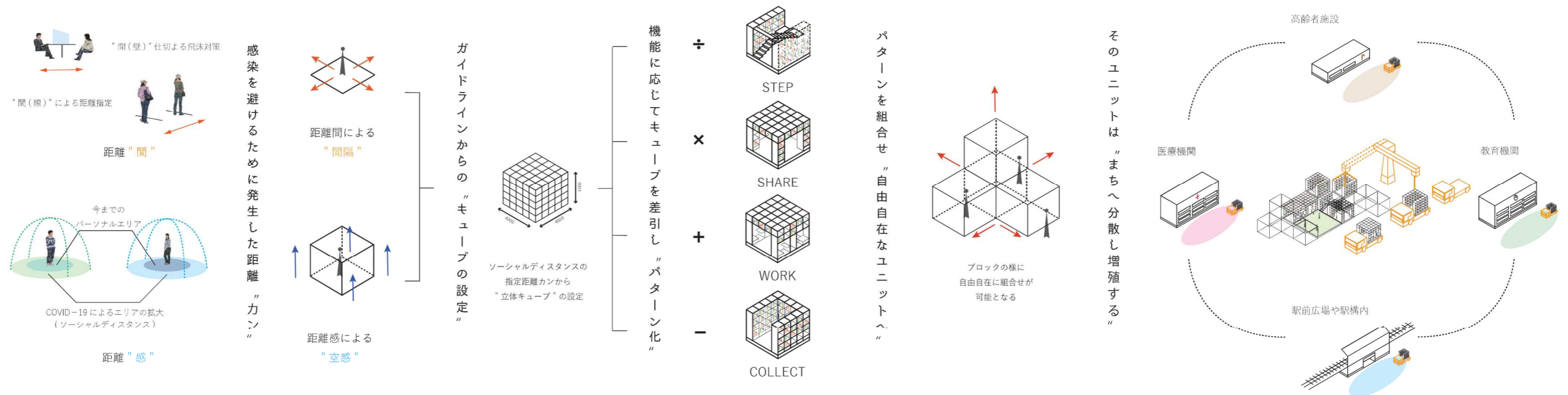
convenient library



CONCEPT

COVID-19の感染が爆発的に広がった現在。接触を避けるために「壁」を立て「線」を引いたことで人々に「距離カン」が生まれた。距離カンの捉え方を再考し、ニューノーマルな時代に対応できる図書館の在り方はどのようなものだろうか。まちの中核となる県立図書館には、県民が会い・交わり・新しい文化を育む場が求められている。そこで私たちは、新たな距離カンのコンポーネントとして立体キューブユニット「書ルフ」を提案する。この書ルフには4つのパターンがあり、立体キューブの中で方向性を意図的に持たせている。それらはブロックのように自由に組み合わせ・可動ができ、増殖していく。日々多くの本が出版される中で、単一の図書館とは違い、知識を制限することなく規模を自由に組み立てることが出来る。また、ユニットの一部をトラックに乗せ「移動図書館」として教育・高齢者施設へ派遣し学びの場を広げることにもできる。書ルフがこの場所で完結するのではなく、植物の成長プロセスのように、各地に撒かれ、人々が育み増殖することで、まち全体で学びの森をつくっていく。

DIAGRAM



IMAGE

